

教育基本方針の構成（案）

基本方針	主な施策	各委員の意見	
1 社会の変化に対応し、生き抜くための教育の充実	(1) 資質・能力の育成につながる教育カリキュラムの展開	⑨⑪⑬⑲⑳㉓㉔㉕㉖	
	(2) 子どもたちが安心して学べる教育環境の整備	④⑨	
	(3) 教職員がもてる力を十分発揮できる教育環境の充実	②⑫⑭	
2 多様性への理解と個に応じた教育的配慮	(1) インクルーシブ教育システムの構築	①⑥⑦⑧⑩⑳	
	(2) いじめ、不登校対策の充実	③④⑫	③③ ③⑥
3 地域に根差した教育の展開	(1) 地域、保護者が主体となって活動するコミュニティ・スクールの体制整備	⑤⑭⑳㉔㉕	
	(2) 地域のひと・もの・ことを活用した教育の展開	⑤⑬⑳	
4 個に応じた切れ目のない一貫した支援	(1) 子ども・若者総合サポートシステムの充実	㉒㉓	
	(2) 三条っ子発達応援事業の充実	㉒	

1 社会の変化に対応し、生き抜くための教育の充実

現状と課題

- ◆ 先行きが不透明かつ変化が急速な社会の中で生き抜いていかなければならない子どもたちが、自らの未来を切り拓き、よりよく生き抜いていける力を育むために、これまで小中一貫教育を軸とした三条市独自の教育カリキュラムを築き上げてきた。これを基盤としつつ、今後ますます複雑化・多様化するであろう社会の中で、明確な答えのない多くの問題に直面する子どもたちが、多様な価値観を持つ他者と協働し、納得解・最適解を見出すために、様々なツールを活用しながら、しなやかにたくましく未来を生きていく力を幼少期から養えるような教育及び教育環境の整備が求められる。
- ◆ 学力に関しては全国平均とほぼ同程度であるものの、教科や年度によってばらつきがあるほか、対話学習の不足などにより、自ら考え、表現することが十分にできているとは言えない現状から、確かな知識・技能をもち、自ら思考・判断し表現する学習経験を積むことが課題となっている。
- ◆ 学校施設については、建築から相当年数がたっている校舎もあり、老朽化に伴う改修については優先度の高い箇所から実施しているが、自然環境の変化や情報化社会の進展などによる教育をとりまく環境の変化への対応も課題となっている。
- ◆ 質の高い教育のためには、教員の能力向上が重要であるが、教員を取り巻く環境については、多忙化が問題となっており、多種多様なスタッフを配置することで教員の負担軽減を図ってきたものの、勤務時間超過の解消は十分でなく、児童生徒と向き合う時間の確保が課題となっている。

(1)資質・能力の育成につながる教育カリキュラムの展開

ICT機器の活用や子ども主体の授業づくり、多様な人との交流を通じて、確かな学力養うとともに、他者への思いやり根差した豊かな心などを育むことで、社会の変化に対応し、生き抜くための資質・能力の育成を図る。

- ICT教育の推進
- 「三条市授業スタンダード」の活用・応用
- 小中一貫教育カリキュラムの自学園化・自校化
- 研修会の実施、異学年交流の推進
- 科学教育センターの活用
- 幼児教育の推進

(2)子どもが安心して学ぶことができる教育環境の整備

老朽化に伴う学校施設の改修について優先度の高い箇所から計画的に実施していくとともに、自然環境や社会情勢などの教育をとりまく環境の変化への対応を図る。

- 安心して学校生活を過ごすための施設整備
- 多様な学習形態に対応できる学習環境の充実

(3)教員がもてる力を十分に発揮できる教育環境の充実

社会の変化に対応し、生き抜く力を備えた子どもを育むためには、質の高い教育が必要であり、そのためには、教員の能力向上が不可欠であることから、教員の研修機会を十分に確保するとともに業務の多忙化解消を進める。

- 研修会の実施
- 校務支援システム・ICT機器の活用
- 超過勤務時間に応じた指導・助言
- 多種多様なスタッフの拡充
- 部活動の地域移行

2 多様性への理解と個に応じた教育的配慮

現状と課題

- ◆ 特別支援教育について、多様な学びの場の確保のため、特別支援学級の増設や通級指導教室の新設に取り組んできた。しかし、個別の教育的ニーズのある児童生徒は増加しており、将来的な自立と社会参画を見据えて、個々の特性を客観的に捉え、一人一人に合わせた適切な指導や支援を行うため、インクルーシブ教育システムの構築の必要性が高まってきている。
- ◆ これまでの取組により、保育所等から小学校、小学校から中学校へのスムーズな移行が図られ、「小1プロブレム」「中1ギャップ」等の学校間の接続問題が解消されてきた。さらに、「いじめが発生しにくい学校づくり」や「不登校数の減少」を目指して道徳教育や学級経営などの充実を図ってきており、Q-Uにおける学校生活満足群の割合は全国平均値を大きく上回っている。しかしながら、依然としていじめや不登校が発生していることから、早期発見や対応力の向上が求められている。

(1)インクルーシブ教育システムの構築

様々な特性のある子どもたちが互いに認め合い、支え合いながら安心して学校生活を送ることができるよう、一人一人に応じた適切な指導・支援と多様な学びの確保を行う。

- 基礎的環境整備と合理的配慮の充実
- 通級指導教室の適切な配置と運用
- 教職員対象の研修の実施

(2)いじめ、不登校対策の充実

全ての児童生徒が満足した学校生活を送ることができるよう、いじめの早期発見・即時対応に取り組むとともに、生活リズムの乱れなど学校生活に起因しない不登校児についても、指導助言を行うなど不登校対策に取り組む。また、個々の事情により教室に来られない児童生徒に多様な学びの場を確保する。

- Q-Uの活用、児童生徒・保護者向け講演会の実施
- よりよい生活リズム定着に向けた取組
- ICTを活用した学びの場の確保、対応する人材の確保

3 地域に根差した教育の展開

現状と課題

- ◆ 少子化や核家族化の進展などにより、地縁的なつながりの衰退や人間関係の希薄化が進むことで、子どもたちが地域の大人たちと関わる機会が減少し、価値観の異なる他人と柔軟に人間関係を築く対話力の低下などを防ぐため、多様な大人と関わる機会を意識的に増やすことで地縁的なつながりを取り戻すことが求められている。
- ◆ 三条市では、子どもの発達に即した継続性、発展性を担保する小中一貫教育を基軸とした教育システムを他の市町村に先駆けて築き上げてきており、それとともに地域と共にある学校づくり、社会に開かれた学校づくりの実現を目指してきているが、活動の主体は依然として学校であり、今後は家庭や地域が「地域の学校」「地域の子ども」のよりよい発展・成長のために主体的に活動していくことが望まれている。
- ◆ 三条市への郷土愛をもち、将来の三条市の発展に貢献したいという思いをもつ児童生徒の育成のため、三条市への愛情、愛着、誇りを一層強くするための教育が必要とされている。

(1) 地域、保護者が主体となって活動する コミュニティ・スクールの体制整備

これまで築き上げてきたコミュニティ・スクールの活動主体を学校から地域や保護者へ移行することにより、地域の個性を大切にした教育を推進する。

- 地域や保護者が主体の体制づくり（地域・保護者向けの研修の実施）

(2) 地域のひと・もの・ことを活用した教育の展開

小中一貫教育カリキュラムの自学園化・自校化を進め、児童生徒が地域のひと・もの・ことと関わり合いながら学ぶことで、住んでいる地域の特色や魅力を感じることができるようにする。

- 小中一貫教育カリキュラムの自学園化・自校化
- 地域素材を生かした事業の実施
- 部活動の地域移行

4 個に応じた切れ目のない一貫した支援

現状と課題

- ◆ 子どもが健やかに育つ環境づくりのためには、子どもの乳児期・幼児期といった段階を捉えて、その段階に応じた心身両面の支援を行っていく必要がある。
- ◆ また、虐待、いじめ、不登校、発達障がい、引きこもりなど、子ども・若者への支援は多岐にわたり、関係機関と連携しながら個に応じた継続的かつ総合的な支援が重要である。「子ども・若者総合サポートシステム」においてこれらの課題へ対応し、ノウハウ・知見を蓄積してきた一方で、子ども・若者を取り巻く環境も大きく変わってきていることから、時勢に応じた連携や取組内容の在り方についてアップデートを行うとともに、引きこもりへの対応など支援の充実が必要な分野について再検討を行う。
- ◆ 子ども・若者総合サポートシステムの中でも、発達障がい等が顕著に増加していることから、三条っ子発達応援事業のより一層の充実を図る。

(1)子ども・若者総合サポートシステム

乳幼児から就労・自立に至るまで切れ目なく一貫して個に応じた必要な支援を総合的に受けられる「子ども・若者総合サポートシステム」については、子ども・若者を取り巻く変化に対応できているか再度点検が必要である。

また、必要な支援の充実が図れていない分野についても在り方を再確認するなど、システム全体のアップデートを行う。

- 「子ども・若者総合サポートシステム」の点検・改善

(2)三条っ子発達応援事業

件数・給付費双方が年々増加傾向にある障がい児通所支援事業については、早期の気づき・支援が非常に重要であることから、一人一人に合った支援を確実に実施できるよう取り組んでいく。

- 三条っ子発達応援事業、障がい児通所支援事業の着実な実施

